

北海道のチカラ「今、私たちにできること～3.11 とともに歩む」 被災地への想い、防災・減災を呼びかける 約2,800人の「共感するひろば」に

北海道テレビ放送会社（HTB）では、東日本大震災の翌年からアナウンサーが中心となり防災・減災の呼びかけや被災地を支援する活動「今、私たちにできること」を続けています。7年目の今年は、道内に事業所を置く企業や団体、学校との協力で東日本大震災が起きた3月11日、札幌駅前通地下歩行空間（チ・カ・ホ）で実施しました。今年のテーマは、昨年引き続き「防災・減災」とし、地震や気象災害への備え、震災での教訓を広く市民に伝えました。当日は約2,800人が来場し、被災地、被災された方々へ想いを共感する「ひろば」となっただけではなく、今後の災害への備えについて知識を学ぶ「ひろば」となりました。

ステージでは東北の被災地で演奏を続けるアンサンブルグループ奏楽(SORA)のコンサートをはじめ、アナウンサーが震災への思いが綴られた書籍を朗読しました。トークセッションでは、被災地支援の実務経験をもとにした「携帯の使い方」や北海道の冬の災害を想定した国際山岳医による冬の災害対策や寒さ対策の備蓄品などが紹介されました。また道庁危機対策課からは、北海道で警戒されている大地震についての正しい情報や東北の被災地の復興状況についての説明があり、来場者の中には必死にメモを取る姿がありました。

震災後変わってしまった東北の海浜をハマヒルガオの花で彩る活動をする民間団体と花の苗を育て植える活動をしている石狩中学校の生徒らも登場し、来場者ともに植えや被災地の学校に送る300枚を超えるメッセージカードをつくり、被災地への想いを共にしていました。

HTBでは、これからも東日本大震災の記憶を大切にし、いつ起こるかわからない災害への備えについて防災・減災の意識を高める活動を行って参ります。

